

さっぽろ 生き物さがし 2017

調査の手引き



「さっぽろ生き物さがし 2017」について

札幌市は 190 万人がくらす大都市ですが、ヒグマのいる広大な森林やサケがのぼる川など、たくさんの生き物がくらす貴重な自然環境が残っています。

「さっぽろ生き物さがし 2017」は、札幌の自然環境の状況を把握することを目的に、森林や草地、水辺などの自然環境の指標となる生き物を調べる一斉調査です。今回は、昨年に続き、市内で観察しやすい 5 つのグループを指標として選びました。みなさんからいただいた報告をもとに、札幌の生き物マップを作成します。

参加者には、結果をまとめた生き物マップと記念品をプレゼントします。また、調査地点や報告数が多いチームをホームページ上で発表します。生き物写真コンテストも行いますので、みなさんが撮った写真もぜひお送りください！

●しらべて知りたいこと、分かること

それぞれの生き物が市内のどこに分布しているかをマップにします。また、今回は指標となる種を選んでるので、市内の各地域がどんな環境なのかを、そこにすんでいる生き物の種類から推定できます。また、今後定期的に調べることで、分布がどう変化していくかを見たいと考えています。

★指標（しひょう）とは ——？

ここで言う「指標」とは、環境の良さを診断する「ものさし」です。太い木があるような良好な状態が保たれた森がないと生きられない生き物もいれば、市街地の小さな若い林でもくらしていける生き物もいます。草むら・川・池などのさまざまな環境について、同じように良好な状態でない生き物もいます。このような生き物が見られるかどうかを「ものさし」として、その場所がどんな状況にあるのか、どう変化しつつあるのかを確認することができます。

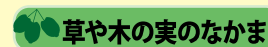
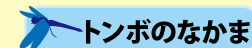
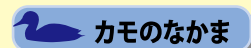
●参加にあたっての注意

野外での活動は安全面に十分注意してください／お子さんは大人と一緒に参加するようにしてください／私有地には無断で立ち入らないでください／一部の原始林など動植物の採集が禁じられている場所では採集しないでください／秋にはスズメバチの活動が活発になりますので、巣のそばに近づかないよう注意してください／送っていただいたチーム名や写真は、札幌市の広報物やホームページ上で使用する場合があります／報告の際にいただいた個人情報は、本事業にのみ利用します

調べ方・報告の仕方について

●調査対象の生き物たち

対象の生き物は、夏から秋にかけて見られる 5 つのグループの動植物です。家の周りや公園でよく見られるものから、豊かな自然のある森や水辺に行かないと見つからないものまで、さまざまな環境にくらす生き物を選んでいきます。



→ 各グループの対象種は 6 ページ、見分け方は、8～19 ページを見よう！

◆調べる

実施期間：7月15日（土）～10月9日（祝）

対象の生き物を確認したら、市内各地に見つけに行きましょう。家の庭や学校など身近な場所で繰り返し観察してもよいですし、大きな公園や野山に出かけて、調べてもよいです。また、1つの場所で複数の生き物を調べたり、特定の生き物をいろんな所でさがしたり、さがし方は自由です。似ている仲間もいるので、手引きの見分け方のポイントや各種図鑑類を参考にしてください。種類が分からない時は、メールやフェイスブックで写真を事務局に送っていただければ、なるべく種名を判定します。

→ さがす場所は、4～5 ページ「ここでさがしてみよう！」を参考に！

◆報告する

報告締切：10月16日（月）必着

結果を調査場所・調査日ごとにまとめて、「報告シート」に書いて送ってください。送るのは調査のつどでも、すべての調査が終わってからでも良いです。メールに添付するか、ファクスや郵便で、締め切り日までに送ってください。たくさん報告できる方は、シートをコピーするか、ホームページ・メールでシートや入力フォームを入手して書いてください。撮影した生き物の写真もありましたら、あわせてお送りください。また、調査の感想や質問、参加風景を撮影した写真も募集しています。メール本文やテキストファイル、お手紙などでお寄せください。

→ 記入のしかたは「報告シート」を参考に！

→ 報告・問い合わせ先は裏表紙に！

◆結果まとめ

1月送付予定

結果は事務局で整理・集計します。まとめた結果は全チームに送付するほか、記念品をさしあげます。ホームページにも結果を掲載します。特にたくさんの方で調査した参加者や、すてきな写真を送ってくれた参加者には、特別な記念品も用意しています！

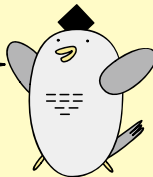
ここでさがしてみよう!



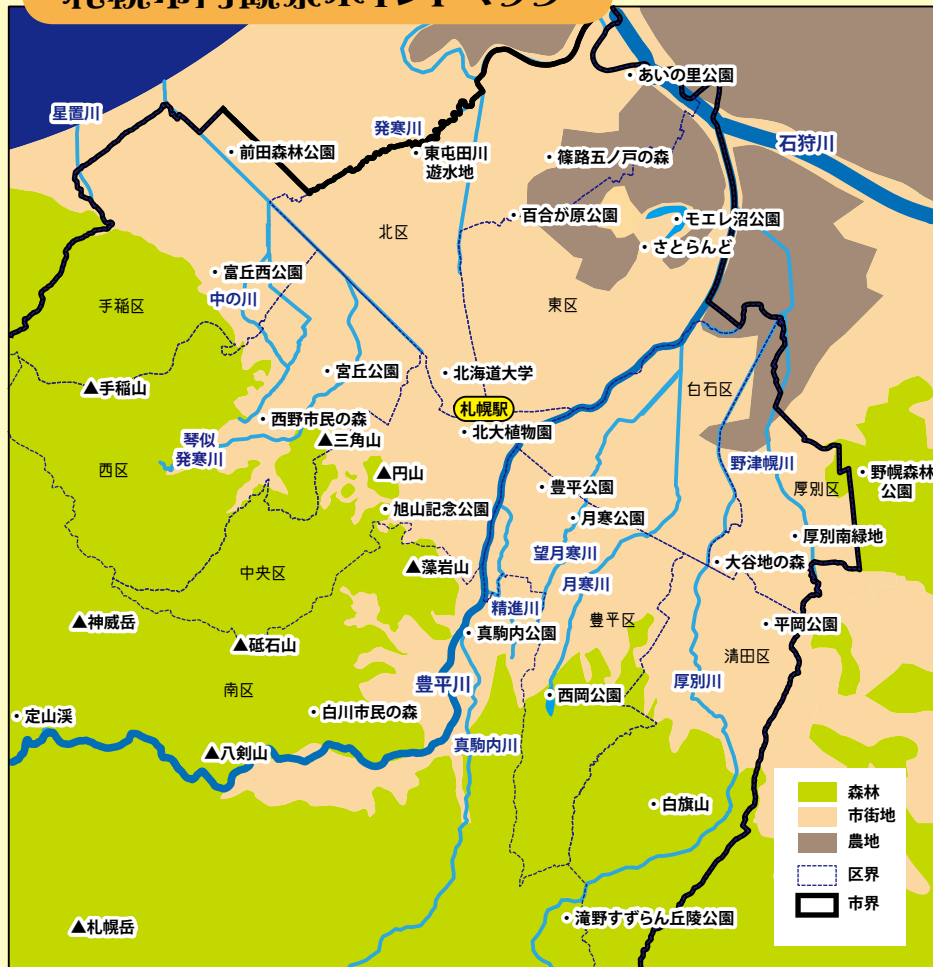
「どこでさがせばいいかわからない!」という人に、見つけやすい場所のヒント、市内の代表的な場所を紹介します。

ここでは大きな公園などを中心に紹介していますが、家のそばにある花だんやちょっとした林、草むらなどでもさがしてみてください。

いろんな所に行ってみるんデューー



札幌市内観察ポイントマップ



カモとトンボの観察ポイント

- 大きな池がある郊外の公園
→ モエレ沼公園・東屯田川遊水地・西岡公園など
 - 市街地で、川や沼のある公園
→ 北大植物園・平岡公園・あいの里公園など
 - 市街地を流れる川ぞい
→ 星置川・野津幌川・真駒内川・中の川など
- ※その他、家や学校周辺の身近な水辺



東屯田川遊水地

バッタの観察ポイント

- 草むらや草の少ない裸地のあるところ。(川ぞいの広い草むら)
→ 豊平川・発寒川・中の川・厚別川など
 - (草むらのある公園)
→ 平岡公園・月寒公園・真駒内公園など
 - (森に囲まれた草むら)
→ 滝野すずらん丘陵公園・野幌森林公園など
- ※その他、家のそばの公園や畑の周り

マルハナバチの観察ポイント

- 花の咲いているところ、公園や庭の周り(郊外の山地)
→ 藻岩山・手稲山・定山溪など
- (市街地周辺の森林や草むら)
→ 野幌森林公園・西岡公園・宮丘公園
→ 藻岩山(スキー場)など
- (花の多い公園・花だん)
→ 滝野すずらん丘陵公園・さとらんど
→ 豊平公園・百合が原公園など

草や木の葉の観察ポイント






- 郊外で、自然林がひろがる森林の歩道ぞいや林のふち
→ 藻岩山・円山・三角山・白旗山・手稲山
→ 野幌森林公園・西岡公園・滝野公園など
 - 市街地で、自然林が残る公園や緑地
→ 平岡公園・宮丘公園・篠路五ノ戸の森
→ 円山公園・旭山記念公園など
 - 川ぞいや池のある公園(ガマ)
→ モエレ沼公園・東屯田川遊水地・西岡公園
→ 月寒川・厚別川・小野津幌川
- ※その他、身近な公園の森や川の水辺など



藻岩山自然歩道

これをさがせ！ 対象動植物の一覧

さっぽろ生き物さがし 2017 の対象種です。よく見られる場所やめずらしさもまとめました。8 ページからの写真やイラストを参考にさがしてみましょう。

グループ	種名	見られる場所	めずらしさ
カモ p.8 	◆マガモ	市街地も含めた池や川	★
	◆オシドリ	周りに木のある池や川面	★★
	◆カルガモ	市街地も含めた池や川	★
	◆コガモ	池や川	★★★
バッタ p.10 	◆トノサマバッタ	草むら、荒地、空き地	★★
	◆ハネナガキリギリス	川ぞいや森のそばの草むら	★★★★
	◆カンタン	草むらの葉や花の上など	★
	◆サップロフキバッタ	山地の草むら	★★
	◆ミカドフキバッタ	山地の草むら	★★
	◆ハネナガフキバッタ	山地の草むら	★
	◆ケラ	草むら、空き地など	★★★★
トンボ p.12 	◆オニヤンマ	小川や溪流ぞい	★★
	◆オオルリボシヤンマ	沼や池、流れのゆるい川のそば	★★★★
	◆ルリボシヤンマ	沼や池、湿地のそば	★★★★
	◆アキアカネ	市街地にもふつうに見られる	★
	◆ナツアカネ	市街地にもふつうに見られる	★★
	◆ノシメトンボ	市街地にもふつうに見られる 平地の川ぞいや池のそば	★
	◆ミヤマアカネ	市街地にもふつうに見られる	★★
◆シオカラトンボ	市街地の川ぞいでも見られる	★★	
マルハナバチ p.16 	◆外来タイプ	農村部や大きな公園、庭などの開けた環境	★
	◆三色タイプ	開けた環境や森林	★
	◆赤色タイプ	低地から高山まで、市街地は少ない	★★★★
	◆黄色タイプ	低地から亜高山まで、トラマルは市街地少ない	★★
	◆灰色タイプ	低地の開けた場所	★
草や木の実 p.18 	◆マムシゲサ	自然林の林内	★★
	◆ツルリンドウ	自然林の林内	★★
	◆トチバニンジン	自然林の林内	★★★★
	◆コクワ (サルナシ)	林内や林のふち	★★
	◆マタタビ	林内や林のふち	★★★★
	◆ミヤママタタビ	林内や林のふち	★★★★
	◆ヤマブドウ	林内や林のふち	★
	◆ガマ	川ぞいや池、湿った水辺	★★

(参考) さっぽろ生き物さがし 2016 の対象動植物 (トンボとマルハナバチは今年と共通)

グループ	種名	グループ	種名	グループ	種名	グループ	種名	グループ	種名
キツツキ	アカゲラ	チョウ	キアゲハ	クワガタ	ミヤマクワガタ	夏や秋の花	エソトリカブト	木の实	ミスナラ
	オオアカゲラ		アゲハ		アカアシクワガタ		アキノキリンソウ		コナラ
	ユゲラ		ミヤマカラスアゲハ		ノコギリクワガタ		キツリフネ		カシワ
	ヤマゲラ		カラスアゲハ		コクワガタ		クサフジ		オニグルミ
	クマゲラ		ヘニシジミ		スジクワガタ		オオハシゴソウ		ホオノキ
			モンキチョウ		カブトムシ		ツリガネニンジン		キタコブシ
			クジャクチョウ						カツラ
			コムラサキ						ヤマグワ
									ツリバナ
									ツノハシバミ



この本で調べてみよう！

今回対象となっている生き物についてくわしく知りたい人は、次の本や図かんを参考にしてください。



●増補改訂版 探そう！ほっかいどうの虫

堀 繁久 (2017) 北海道新聞社



昆虫のさがし方やつかまえ方を紹介した本はたくさんあるが、どれも本州向けのものばかり。北海道でどうやったら虫に出会えるかを具体的に紹介しているのはこの本だけ。著者はこの手引きにも写真を提供してくれている北海道博物館の堀学芸員。北海道で見られる主な昆虫を環境ごとにくわしく紹介。似たような仲間が多い昆虫も、きれいなアップ写真で見比べられるので、とても

便利。つかまえ方や写真の撮り方も出ているので、この本を読んでいるような昆虫をさがしてみよう。2006 年に出た本が今年 7 月にリニューアルして、さらに内容充実！ 今回の対象種では、トノサマバッタ (p.102)、ハネナガキリギリス (p.100)、サップロフキバッタ (p.84)、ケラ (p.142)、オニヤンマ (p.110)、アキアカネ (p.138)、エゾオオマルハナバチ (p.92) などが出ています。

●札幌の昆虫

木野田君公 (2006) 北海道大学出版会



札幌市内で見られる昆虫約 1700 種を紹介した図鑑。ハンディタイプながら、主な種類はだいたい載っているため、とりあえず見つけた虫を調べるのに非常に便利。一部の幼虫も写真が出ている。

●新北海道の花

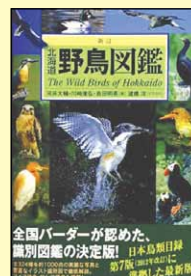
梅沢 俊 (2007) 北海道大学出版会



北海道で見られる植物の花約 1900 種を紹介した図鑑。著者はとてもくわしい植物写真家で、野生の植物を調べるのにもっとも適している本。花の色の順に並んでいるので、分類にくわしくない人でも調べやすい。

●新訂 北海道野鳥図鑑

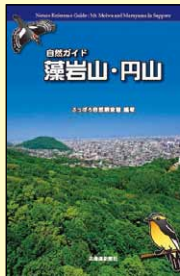
河井大輔ほか (2013) 亜細亜社



北海道で見られる鳥類 321 種を紹介した図鑑。わかりやすい写真を豊富に使っており、形態や生態についてもくわしく説明している。似た種類はイラストでの見分け方が載っている。

●自然ガイド 藻岩山・円山

さっぽろ自然調査館編 (2013) 北海道新聞社



藻岩山・円山エリアの散策コースやそこで見られる代表的な動植物の生態について紹介したガイドブック。今回の対象種を始めとした札幌の生き物を紹介した読み物としても活用できる。

カモのなかま

※「大きさ」は首と尾を伸ばして全て含めた長さ。

池や川などにすむカモの仲間、札幌で夏に見られるのはここで紹介している4種です。春や秋の渡りの時期には多くの種類が見られますが、今回は札幌で子育てをするカモたちをさがしてください。

マガモ ★ カモと言えば!

- 場所** 市街地の池や川にも
- 時期** 一年中(留鳥)
- 大きさ** 約 59 センチ



左がオス、右がメス

- ♪ 大型で、よく見かける。
- ♪ オスは頭が緑色で光っている。
- ♪ 足はオレンジ色。

オシドリ ★★ オスがとても目立つ!

- 場所** 周りに木のある池や川面
- 時期** 夏(夏鳥)
- 大きさ** 約 45 センチ

- ♪ オスはオレンジ色などで目立つ。くちばしは赤色。
- ♪ メスは灰色で目の周りに白い輪。
- ♪ 大きな木の穴に巣をつくり、どんぐりも食べる。

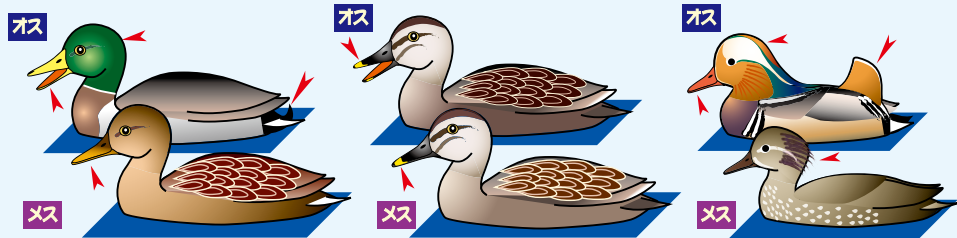


オス



メス

夏のカモ類の見分け方



マガモ

- ・オスの頭は緑色、首に白い帯
- ・オスのおしりの羽根が黒く、はね上がる
- ・くちばしはオスは黄色、メスは黒とオレンジ色

カルガモ

- ・オスとメスはよくにている
- ・オスの方が黒っぽい
- ・くちばしは黒く、先が黄色い

オシドリ

- ・オスは大きいイチョウ羽が目立つ
- ・頭の後ろに長い羽がある
- ・くちばしはオスはオレンジ色、メスは黒っぽい

カルガモ ★ 似たもの夫婦

- 場所** 市街地の池や川にも
- 時期** 一年中(留鳥)
- 大きさ** 約 61 センチ



左がオス、右がメス



- ♪ 大型で、よく見かける。
- ♪ オスとメスは似ている。
- ♪ 足は濃いオレンジ色。

夏はめずらしい コガモ ★★★

- 場所** 池や川など
- 時期** 冬、まれに夏(冬鳥)
- 大きさ** 約 37 センチ



オス



メス

- ♪ もっとも小さいカモ。
- ♪ オスの顔は茶色と緑色。
- ♪ オスの尾には黄色いもよう。
- ♪ モエ沼や石狩川で記録あり。



バッタのなかま



※「大きさ」は体の長さ。
ハネが長い場合ハネまで

川ぞいや空き地の草むら、庭先、森のそばの草むらなどをさがしてみよう!

トノサマバッタ ★★ 大きなバッタ!

- 場所** 草むら、荒地、空き地など
- 時期** 7～9月ごろ
- 大きさ** 約4.5～6センチ



茶色タイプ(褐色型)

♪緑色と茶色の2タイプがある。
♪後ろ足のつけね付近に耳がある。

♪シヤッ、シヤッ

ハネナガキリギリス ★★★ 大きなキリギリス!

- 場所** 川ぞいや森のそばの草むら
- 時期** 7～9月ごろ
- 大きさ** 約4～5センチ

♪メスはおなかの先に刀のような産卵管がある。

にている種 ツコムシ、クサキリ類

♪ツコムシは大きさ3センチほどで小さい。
♪クサキリ類は、大きさ3-4センチほどで、頭は横から見ると三角形

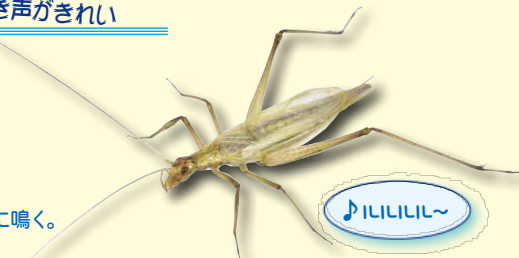


♪キョウギース、キョウギース

カンタン ★ 鳴き声がきれい

- 場所** 草むらの葉や花の上など
- 時期** 8～9月ごろ
- 大きさ** 約1～2センチ

♪コオロギの仲間。オスがよく鳴く。
♪秋になると、夜だけでなく日中もさかんに鳴く。
♪ヨモギの葉にすることが多い。



♪ルルルルル

サッポロフキバッタ ★

名前に「札幌」がつく

- 場所** 山地の草むら
- 時期** 6～9月ごろ
- 大きさ** 約2～3センチ

♪ハネを持たない。
♪目から背中にかけての黒い線が目立つ
♪幼虫は体が黒い。

にている種 ミカドフキバッタ



幼虫



山でよく見るバッタ



ミカドフキバッタ ★★

- 場所** 山地の草むら
- 時期** 6～9月ごろ
- 大きさ** 約2～3.5センチ

♪ハネは短い。
♪後ろ足の内側や側面が赤い。(→)

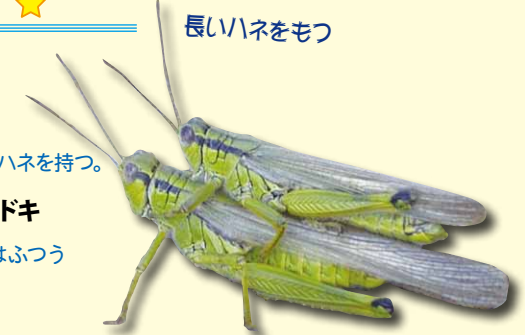
ハネナガフキバッタ ★

- 場所** 山地の草むら
- 時期** 7～9月ごろ
- 大きさ** 約2.5～4センチ

♪名前のとおり、体をはみ出すほどの長いハネを持つ。

にている種 コバネイナゴ・イナゴモドキ

♪コバネイナゴは一回り小さい。後バネはふつうお腹の先を越えない。
♪イナゴモドキの前足は細くて長い。



長いハネをもつ

ケラ ★★★ まるでモグラのよう

- 場所** 草むら、空き地など
- 時期** 7～9月ごろ
- 大きさ** 約3センチ

♪前足はモグラのように土をほりやすい形をしている。
♪ピロードのような細かい毛が生えている。
♪夜行性で、オスもメスも鳴く。



♪ジー

今年もやるよ!

トンボのなかま



※「大きさ」は頭から尾の先までの長さ。

幼虫（ヤゴ）は水の中で育ち、成虫は空を飛び回ります。水辺に多い!



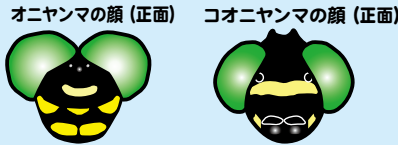
オニヤンマ ★★

黄色と黒のしま模様!

- 場所** 小川や溪流ぞい
- 時期** 成虫は7～8月ごろ
- 大きさ** 約7～9センチ

♪目は緑色、体はトラ模様

にている種 コオニヤンマ



♪両目が接している。 ♪両目がはなれる。
 ♪上部に角のような突起。

♪よく川ぞいのなわばりを行ったりきたりして飛んでいる。

オオルリボシヤンマ ★★★

りり色のヤンマ!

- 場所** 沼や池、流れのゆるい川のそば
- 時期** 成虫は7～9月ごろ
- 大きさ** 約7～8センチ

♪体は、黄緑と黒のストライプ。メスには青と黒のタイプもある。

にている種 ルリボシヤンマ

♪むねの模様は先がふくらむ(右図:→)。



むねの模様

ルリボシヤンマ ★★★

環境 沼や池、湿地のそば

♪成虫の時期や大きさは、オオルリボシヤンマとほぼ同じ。

♪むねの模様は先がほくなる(右図:→)。



いわゆる「赤トンボ」にもいろいろな種がいます。見分けてみましょう!

アキアカネ ★

- 場所** 市街地にもふつうに見られる
- 時期** 成虫は7～10月ごろ
- 大きさ** 約4センチ

にている種 ナツアカネ

♪成熟すると赤くなる。メスは黄色のままのこともある。



むねの模様



♪真ん中の黒い模様は、先が細くなる。

ナツアカネ ★★ 最近増えた?!

- 場所** 市街地にもよく見られる
- 時期** アキアカネよりもやや早い
- 大きさ** 約4センチ

♪アキアカネに比べ、顔を含めて体全体が赤くなる。

むねの模様



♪真ん中の黒い模様は、先まで太い。



ノシメトンボ ★

- 場所** 市街地にもよく見られる
- 時期** 成虫は7～10月ごろ
- 大きさ** 約4センチ

にている種 ミヤマアカネ・コノシメトンボ

♪ノシメトンボとコノシメトンボはハネの先が黒い。

ミヤマアカネ ★★

- 場所** 平地の川ぞいや池のそば
- 時期** 成虫は8～9月ごろ
- 大きさ** 約3.5センチ



♪ハネの先より内側に茶色い帯。



ノシメトンボ

♪むねの中央に黄色の太い模様。



コノシメトンボ



♪ノシメトンボよりもやや小さい。♪少ない。

シオカラトンボ ★★

粉をふいたような体

- 場所** 市街地の川ぞいでも見られる
- 時期** 成虫は6～8月ごろ
- 大きさ** 約5センチ

♪オスは黄色から白青色になり、先が黒い。メスはふつう黄色のまま。

にている種 シオヤトンボ



シオヤトンボ

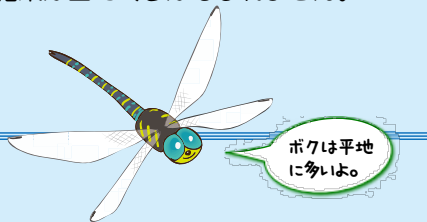
♪シオカラトンボより小さく、尾が太い。出現時期がやや早い。

去年の結果を見てみよう!

今年の対象種のうち、トンボのなかまとマルハナバチのなかまについては去年も報告してもらいました。どんな種類が多かったのか、どんな場所で見られたのか、まだ調査されていないのはどこかなど、今年の参考にしてみましょう。昆虫の数や出方は年によって変化があるため、ちがった結果が出てくるかもしれません。

トンボのなかま

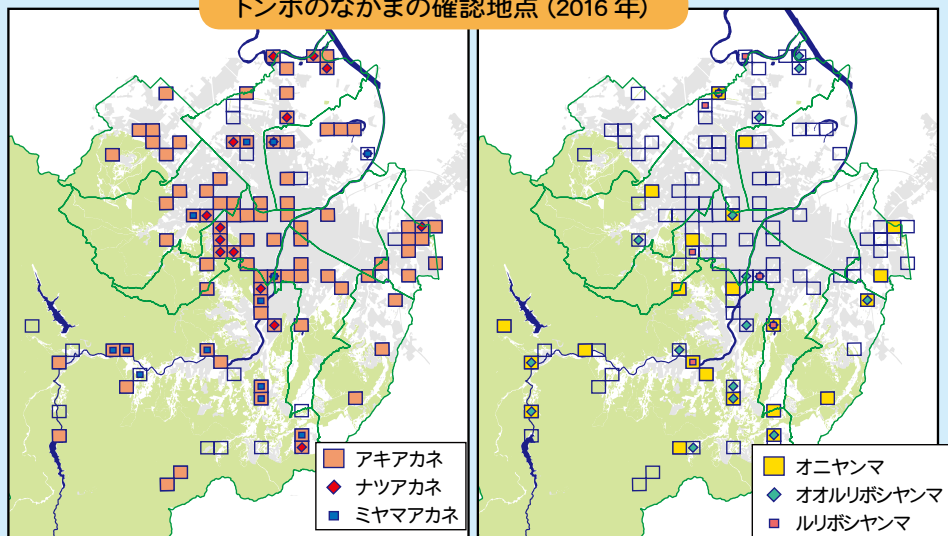
種名	地区数	報告数 (写真のある報告数)
アキアカネ	89 地区	219 (52)
ノシメトンボ	54 地区	99 (29)
オニヤンマ	22 地区	45 (16)
シオカラトンボ	21 地区	31 (16)
オオルリボシヤンマ	18 地区	37 (12)
ナツアカネ	18 地区	23 (8)
ミヤマアカネ	14 地区	17 (6)
ルリボシヤンマ	7 地区	8 (2)



もっとも確認地区数が多かったのはアキアカネで、平野部から山地まで広く分布していました。同じアカトンボのなかまでも、ナツアカネは平野部に、ミヤマアカネはより山地に近い場所を中心に分布していることがわかりました。

ヤンマ類ではオニヤンマがもっとも多く、山間部の溪流にやや多くかたよって分布していました。次に多いオオルリボシヤンマは、オニヤンマよりも平地に多い傾向がありました。

トンボのなかまの確認地点 (2016 年)



これまでの生き物一斉調査



札幌市では、過去にも市民参加の生き物調査を実施してきました。それらの市民調査果について簡単に紹介します(くわしくは札幌市のサイトで!)

さっぽろ生き物さがし 2016 (2016 年)

去年はキツツキ・クワガタ・トンボ・チョウ・マルハナバチ・夏の花・木の実の7グループの約50種を対象に調査をしました。84チーム計601名が参加、札幌全体の約16%の範囲を調べることができました。報告が多かったのはアキアカネ・モンキチョウでした。

マルハナバチ調査隊 2015 (2015 年)

2015年はマルハナバチにしぼって調査をしました。82チーム計243名が参加、札幌全体の約11%、市街地周辺の約3分の1の範囲を調べることができました。

分布が拡大しつつある外来種セイヨウオオマルハナバチがもっとも多く確認されましたが、在来種もたくさん確認されました(16~17ページ参照)。

こんちゅうウオッチ (2014 年)

昆虫全般を対象とし、122チーム計577名が参加しました。特定10種に指定されたキアゲハやノシメトンボが多く報告されています。

マルハナバチのなかま

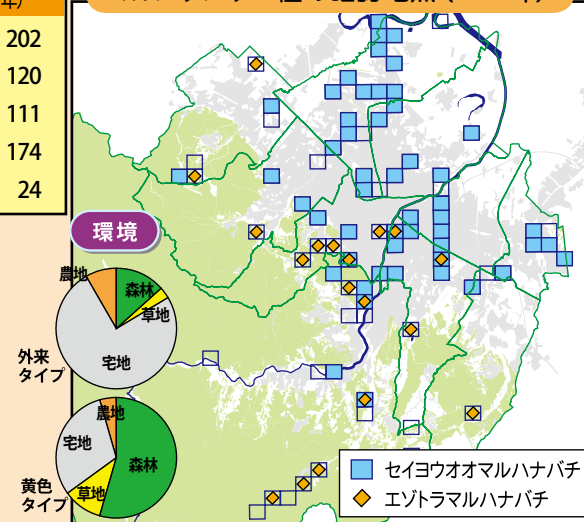
ボクは40地区で見つかったよ。



タイプ	地区数	報告数	地区数	報告数
	(2016 年)	(2016 年)	(2015 年)	(2015 年)
外来タイプ	51 地区	109	89 地区	202
三色タイプ	40 地区	95	62 地区	120
黄色タイプ	24 地区	34	53 地区	111
灰色タイプ	21 地区	41	64 地区	174
赤色タイプ	3 地区	3	19 地区	24

マルハナバチ2種の確認地点 (2016 年)

マルハナバチの確認情報は、2015年は130地区、2016年は87地区からありました。外来タイプのセイヨウオオマルハナバチがもっとも多く、市街地で多く見られています。これに対して、黄色タイプの一つエゾトラマルハナバチは、森の多い山地でよく見られました。



マルハナバチのなかま

今年もやるよ!

※ ♀ は働きバチ、♂ はオスバチ、
♀ は女王バチを示す。

花と深いかわりを持つハチの仲間。去年に引き続き情報を募集します。5 つに分けた色のパターンで報告してもらいます (種名が分かる人は種名も)。「マルハナバチ調査隊 2015」の手引きや「北海道マルハナバチ図鑑」も参考にしてください。

外来タイプ ★ セイヨウオオマルハナバチ

外来種



♪ お尻が白いのはこのタイプのみの。
♪ 胸の黒地にレモンイエローの帯がよく目立つ。
♪ オスとメスは似ている。

場所 開けた環境を好み、農村部や大きな公園、庭などに多い。

時期 7月から9月にかけて。8月後半はオスも出てくる。

花 ラベンダー、ムラサキツメクサ、オオハンゴンソウ、コスモスなど。

※トマトなどの受粉を助けるために導入された種で、野外に逃げたものが増え、在来種への悪影響などが心配されています。環境省の「特定外来生物」に指定され、生きたまま持ち運ぶことなどが禁止されています。

三色タイプ ★ オオマルが多いが、早い時期はコマルも



エゾオオマルハナバチ

♪ 黒と白の縞模様で、お尻はオレンジ色。
♪ オスは全体に黄色味がかって、トーンがはっきりしない。

場所 開けた環境を好み、どのような場所でもよく見られる。

時期 7月から9月にかけて。8月後半はオスも出てくる。

花 ささまざまな花を利用する。クローバー・ハマナスなど。



エゾコマルハナバチ ♀

♪ 働きバチがオオマルに似ているが、えりの白が薄い。
♪ 7月後半には数が減り、黄色タイプのオスが出てくる。

エゾヒメマルハナバチ ♀

♪ 女王がオオマルに似ているが、胸と腹のつなぎ目が白い。
♪ 高山でしか見られない。



赤色タイプ ★★★ アカマルハナバチ

8月にはいなくなる!



♪ 全身赤みの強いオレンジ色で、お尻が黒い。
♪ オスは赤みが薄いオレンジ色で、お尻の黒は目立たない。

場所 低地から高山まで。市街地でも見られるが少ない。

時期 7月後半はオスが増え、8月にはほとんど見られない。

花 夏はシロツメクサやラベンダーの花で見かける。

黄色タイプ ★★ 基本はトラマル。街で見えるのはコマルのオスかも。



エゾトラマルハナバチ

♪ 全身薄いオレンジ色。
♪ 顔が長く、舌も長い。
♪ オスとメスはよく似ている。

場所 低地から亜高山まで分布するが、市街地では少ない。

時期 7月から9月にかけて。8月後半はオスも出てくる。

花 長い花を好む。キツリフネ、エソトリカブトなど。



エゾコマルハナバチ♂

♪ 全身明るい黄色で、お尻だけオレンジ。
♪ 8月中旬には見られなくなる。

エゾナガマルハナバチ

♪ 黄色味を帯びた灰色。
♪ 顔が長い。
♪ 主に高山に生息する。



灰色タイプ ★ 基本はニセハイロ。山ではナガマルが見られる。



ハイロマルハナバチ (類)

♪ 全身灰色だが、むねは毛が少なく黒っぽく見える。
♪ ハイロ～類にはハイロとニセハイロを含む。野外での区別は難しいが、市内ではニセ～が多いと言われる。

場所 低地の開けた場所に多い。

時期 7月から9月にかけて。8月後半はオスも出てくる。

花 クローバーやクサフジなどのマメ科の花。

草や木の実のなかま

※「大きさ」は植物全体の長さを表す。

秋は実のなる季節。草やつるに付く目立つ実をさがしてみましょ。目立つ実、いいにおいの実は、動物たちをひきつけて食べさせ、タネを運ばせます。

マムシグサ ★★

赤くて目立つ

場所 自然林の林内

時期 9～10月ごろ

大きさ 約30～100センチ

- ♪卵ぐらいのかたまりに赤い実がたくさんつく。地がえんじ色で実が目立つ。
- ♪小さいときは雄株だが、大きくなると雌株へと「性転換」する植物。
- ♪実は鳥が食べ、中のタネが運ばれる。



ツルリンドウ ★★

秋遅くまで見られる

場所 自然林の林内や林のきわ

時期 9～11月ごろ

大きさ 長さ約40～100センチ

- ♪つる植物で、地面をはったり、ほかの植物にからみつく。
- ♪長い柄の先に、1～2cmの大きさの赤い実をつける。2個ずつ付くことが多い。
- ♪地面すれすれにあることが多い。



トチバニンジン ★★★

赤いまり

場所 自然林の林内

時期 8～9月ごろ

大きさ 約50～80センチ

- ♪葉は手のひら状で5枚に分かれる。
- ♪赤い小さな実があつまってくる。鳥が食べて、タネを運ぶ。
- ♪「朝鮮人参」と近いなかまで、根は薬にする。
- ♪市内では西部や南部に多く見られる。



葉の形

コクワ/マタタビ/ミヤママタタビ

場所 林内や林のふち

時期 9～10月ごろ

大きさ 高さ約2～10メートル
※からみつく木により異なる

- ♪つる植物で、木にからみつながら大きくなる。実は2センチ程度の大きさ。
- ♪コクワの実丸く、マタタビは細長く先がとがる。ミヤママタタビは細長い。
- ♪あまいにおいて哺乳類を引きつけ、タネを運ばせる。
- ♪キーウィに近いなかまで、食べることも甘い。



熟したコクワ



コクワ ★★



熟したマタタビ



マタタビ ★★



ミヤママタタビ ★★★

ヤマブドウ ★

野生のすつばいブドウ

場所 林内や林のふち

時期 9～10月ごろ

大きさ 高さ約2～10メートル
※からみつく木により異なる

- ♪つる植物で、まきひげで木にからみつながら大きくなる。
- ♪秋には葉が真っ赤に紅葉する。
- ♪実は1センチほどで青紫色になる。哺乳類が食べて、タネが運ばれる。



若い実



ガマ ★★

水辺で目立つ

場所 川ぞいや池、湿った水辺

時期 9～10月ごろ

大きさ 約150～200センチ

- ♪アメリカンドックのような形をした実が茎の先につく。長さ10～20センチ程度。
- ♪熟すと実がはじけて、白毛がついた小さいタネが風によって運ばれる。



タネ



さっぽろ生き物さがし2017 結果報告シート

★1.しらべた方の情報 ※チーム番号は資料をお送りした時の封筒の宛名に書いてあります。

■チーム番号	チーム名	■代表者名
--------	------	-------

※チーム番号がない人は、代表者の連絡先（住所・メール・電話）・参加人数などを事務局まで連絡して、登録してください。
 ※このシートは一箇所1回の調査ごとに書いてください。複数の結果については、別のシートを使ってください。

★2.しらべた場所の情報 ※結果の報告回数 回目

■調査した日	月	日	（午前・午後）	■天気			
■場所・地名	住所		区	メッシュ番号・緯度経度など			

※記入例 地名（自宅の庭）-住所（北区北10西6）、地名（豊平公園）、地名（藻岩山）-メッシュ番号（649142-44）

■環境（一つに○） 市街地・庭、公園などの花壇、公園の草地、公園の森、川原、農地、山地の草地・荒地、山地の森、高山

※「地名」は具体的な場所名を書きます。位置が分かるように、「住所」を「○丁目」程度まで書いてください。大きな公園や学校名などであれば「住所」は不要ですが、広い場所を示す地名のときは「住所」も書いてください（藻岩山、野幌森林公園など）。
 ※「メッシュ番号」や「緯度経度」が分かるときは、具体的に書いてください。「メッシュ番号」は地域を示す共通コードで、3次メッシュコード（1キロメッシュ）まで書いてください。ウェブサイト「Geocode Viewer」などでコードを調べられます。

★3.見つけた生き物の名前（対象グループごとに書いてください）

グループ	種名：	写真：	種名：	写真：	種名：	写真：
	種名：	写真：	種名：	写真：	種名：	写真：
	種名：	写真：	種名：	写真：	種名：	写真：
■種類の見分け <input type="checkbox"/> 自信あり <input type="checkbox"/> 自信なし			■観察メモ			

グループ	種名：	写真：	種名：	写真：	種名：	写真：
	種名：	写真：	種名：	写真：	種名：	写真：
	種名：	写真：	種名：	写真：	種名：	写真：
■種類の見分け <input type="checkbox"/> 自信あり <input type="checkbox"/> 自信なし			■観察メモ			

※調査の対象としたグループのマークに○をつけて、種名を書いてください。9種以上記録するときは次の欄を使ってください。手引きに載っていない種でもよいです。さがして見つからなかったときは「なし」と書いてください。
 ※撮影した写真がある場合は、この表との対応が分かるようにファイル名かプリントの裏に番号をつけて、メールに添付か郵送してください。デジカメのデータをまとめて郵送するときは、CD-RやUSBメモリで送ってください。
 ※種類の見分けに自信があるかないか、○をつけ、観察時の感想・コメント、難しかった見分け等についてメモしてください。
 ※このシート1枚で、1箇所1回の調査の2グループの記録までできます。書ききれないときはA4の専用用紙に書いてください。



○ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/chosa/29chosa.html>

★お問い合わせ・結果の送付先

メールは、sapporo-ikimono@cho.co.jp へ。
 郵送・電話・FAXは、下記の事務局連絡先へ。



○さっぽろ生き物さがし2017事務局（さっぽろ自然調査館内）

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階 ☎電話011(892)5306 📠ファクス011(892)5318

○主催 札幌市環境局 環境管理担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目札幌市役所本庁舎12階 ☎電話011(211)2879 📠ファクス011(218)5108

